

P3-0875

アイディアグッズ集の紹介

川島 瞳, 安藤 右子, 中野 弘陽, 黒川 洋明, 楠本 泰士, 豊田 利郎, 加藤 真希,
重森 健介, 津久井洋平, 石橋 哲弥

東京都理学療法士協会小児福祉部

key words アイディアグッズ・障がい児・アンケート

【目的】

東京都理学療法士協会小児福祉部では「小児医療・福祉の充実を図る活動」として東京都小児リハビリテーションマップの作成や各種講習会を開催している。その一環として、日頃家族やセラピストが子ども達に工夫しているグッズやアイデアを共有し、多くの子ども達の快適な生活につなげる目的で「アイディアグッズ集」を作成している。より家族のニーズに応えるために「日常生活の困っていること」についてアンケート調査を実施し、アイディアグッズ集に反映したので報告する。

【活動報告】

2013 年より『子どもの福祉用具展～キッズフェスタ～』に出展し、アイディアグッズ集の作成・配布およびグッズの展示を行っている。アイディアグッズ集の作成は部員所属施設及び神奈川県・埼玉県理学療法士会協力のもと作品を募集し、2013 年度は 36 作品を掲載した。2014 年度は 124 名の家族を対象に「日常生活の困っていること」についてアンケート調査を実施した。姿勢、医療的ケア、衣服類、移動、食事、遊び、その他の 7 項目を質的分析法を用いて分類し、結果を新たな 41 作品と共に掲載した。2015 年度は昨年度のアンケート結果を踏まえ、困っていることの各項目に対しコラムを加えた「アイディアグッズ集保存版」を作成した。

【考察】

特別なニーズのある子ども達にとって便利と思われるものは、相対的な需要の少なさから商品化されている物は少なく、個別に作成し対応していることが多い。アイディアグッズ集の需要は高く、障がい児に携わる家族やセラピスト、教員、施設職員にとって有用であったと考える。家族の「困っていること」に対しては理学療法士だけでは解決困難なものもあり、多職種を交えて検討していくことが今後の課題である。

【結論】

今後もこれらの活動を通し、障がいを持つ子ども達を取り巻く実態やニーズの把握に努め、日常生活や社会参加の一助に繋げていきたい。